

ポイント 費用を少なく又は収入を過大に計上することにより利益を過大にします。

A5 中小の会社においてはその作成する会社の決算書に外部の監査がないことや、金融機関や官庁に提出することもあるため、利益や売上を実際の金額以上に膨らましたり、赤字の額を減らしたりすることがあります。

これは中小会社の場合に決算書が税務上の要件を満たして作成されれば良いとの判断が手伝っているためです。

貸借対照表、損益計算書の中でどのような項目にその傾向が見受けられやすいかを掲げてみます。

① 減価償却費の計上を十分にしていない。

税務上、個人と異なる点として償却費の計上が償却限度額の範囲内であれば任意であるため、意図的に償却費を少なくすることが可能です。前期と比べて極端に償却費が減っている場合は償却不足があるかもしれません。

② 引当金の計上を十分にしない。

貸倒引当金や賞与引当金あるいは退職給与引当金といった費用の見積もり計上額について、適正額でなしに少なく計上されている。

③ 修繕費などの経費を固定資産に計上する。

修繕にかかる費用は維持管理費と同様に経費であり、一方改良費はその資産価値の増加や使用期間の延長ということで資産に計上されます。本来修繕費として処理できるものを資産計上して費用を繰り延べる方法です。

④ 費用を落とさずに仮払金等の資産勘定に計上しておく

本来経費として処理されなければならないものを未だ経費として確定していないがごとく仮払金等の仮の資産勘定に置いておくことが考えられます。

⑤ 翌期の売上を今期に繰り入れる

本来翌期の売上を今期末の売上として今期に繰り入れて計上する方法です。

⑥ 棚卸資産の計上を過大に行う。

期末の商品、製品、原材料あるいは貯蔵品といった棚卸資産を実際の数値、単価を変えることにより在庫品を増やすことがあります。

経費を少なく計上する・・・① ② ③ ④
売上や資産を過大に計上する・・・⑤ ⑥